

●各図書館コーナー一覧●

| 図書館名 | コーナー名 |
|-------------|------------------------------|
| 中央図書館 | ●さいたま専科コーナー |
| | ●見沼たんぼコーナー |
| | ●各種支援コーナー (ビジネス、医療、子育てなど) |
| | ●さいたまゆかりコーナー |
| 北浦和図書館 | ●うなぎ・サツマイモの本コーナー |
| | ●浦和が出てくる本コーナー |
| 東浦和図書館 | ●サッカーコーナー |
| | ●緑区ふるさとを知るコーナー |
| | ●地域情報コーナー：今をみつめる |
| | ●人と緑コーナー |
| 桜図書館 | ●桜コーナー |
| | ●川コーナー |
| 大宮図書館 | ●アルディージャコーナー |
| 大宮西部図書館 | ●鉄道コーナー |
| 与野図書館、同・西分館 | ●バラのまちコーナー |
| 岩槻図書館 | ●人形コーナー |
| | ●石井桃子さんの本コーナー |
| 北図書館 | ●瀬田貞二さんの本コーナー |
| | ●らいちゃんコーナー |
| 桜木図書館 | ●ビジネス関連書コーナー |

こんな本、集めてます〜各図書館コーナー探訪〜

さいたま市図書館では、各館で特色ある資料を集めたコーナー作りを行っています。皆さんは図書館にどんなコーナーがあるか、ご存知でしょうか？

各図書館のコーナーは、左の表のようになります。その中でいくつかのコーナーをピックアップしてご紹介します。

●さいたま専科コーナー
さいたま市の旬な情報・10区に関する資料を集めたコーナーです。

●うなぎ・サツマイモの本コーナー
さいたま市の伝統産業である「浦和のうなぎ」、北浦和で発見されたサツマイモ「紅赤」にちなんで、うなぎ・サツマイモ

に関する本を集めています。「読むうなぎ」「読むサツマイモ」というブックリストの発行や、「紅赤ふれあいまつり」(12月18日開催)などの関連行事も行っていきます。

●サッカーコーナー、アルディージャコーナー
東浦和図書館では、サッカーに関する資料の他、浦和レッズ関連グッズの展示も行っていきます。

●桜コーナー
大宮図書館では、大宮アルディージャに関する資料を集めています。

桜とサクラソウに関する資料を集めています。DVD等で、美しい桜の映像も見られます。

●川コーナー
荒川にちなみ、川に関する資料を集めています。事典から写真集まで様々な資料があります。

●鉄道コーナー
「鉄道のまち」にちなんで、鉄道に関する資料を集めたコーナーです。

●バラのまちコーナー
「バラのまち・中央区」にちなんで、バラに関する資料を集めたコーナーです。年2回、「バラのまちだより」を発行しています。

●人形コーナー
「人形のまち・岩槻」にちなんで、日本人形に関する専門的・一般的資料を集めています。

この他、新刊やおすすめの本を集めたコーナーや、テーマ展示コーナーなど、ここでは紹介していないたくさんコーナーがそれぞれの図書館にあります。図書館にどんなコーナーがあるか、この機会にぜひ探してみてください。



東浦和図書館サッカーコーナーの様子
サッカーに関する資料が並んでいます



氷川参道の並木

市内の 大ケヤキ

わがまち はっけん Sai発

を見に行く!

今回はさいたま市の木であるケヤキを取りあげます。ケヤキはニレ科の植物で東アジアと日本に分布しています。木目が美しく、磨くと光沢がでることから、昔から指物や建築用材に使われてきました。また関東地方では屋敷林として植えられることが多かったようです。

市内にあるケヤキの中から、県や市の指定天然記念物になっている木を中心にご紹介していきます。

①清河寺の大ケヤキ(西区)

樹齢約650年。上のほうは落雷で消失しており樹高はあまりありませんが、幹は太く、根方で人の輪をつくるには9人を必要とするほどです。2世も大ケヤキの後ろ側に植えられ、成長しています。

県の天然記念物に指定されています。



②大久保の大ケヤキ(桜区)

樹齢約600〜700年。落雷を受け、中心に畳が2枚も敷けるといわれるほどの穴があいているにもかかわらず、樹勢はよく、幹の太さはケヤキとしては県内最大の太さです。こちらも県の天然記念物として指定を受けています。

この大ケヤキには二つの言い伝えがある

⑦山崎の大ケヤキ(緑区)

もとは個人宅の庭先に植えられていたものですが、第二産業道路の建設にともない、現在の形で残されました。中央分離帯の中でまっすぐにそびえています。



⑧氷川参道の並木(ケヤキ以外にも含む)(大宮区)

かつては杉並木であったことが「大宮をどり」では歌われていますが、現在ではケヤキが多く、天然記念物としての指定もケヤキがほとんどです。古木が多く、参道を両脇から覆うような枝ぶり、氷川神社へ続く道を夏でも涼しくし、さわやかな気分させてくれます。

⑨国道463号(通称埼大通り)のケヤキ並木(浦和・中央・桜区)

市や県の指定天然記念物ではありませんが、北浦和駅入口交差点から西新井町交差点(所沢市)までの約17kmにわたって続くケヤキ並木は日本最長です。またこの並木は、1994年に読売新聞120周年記念企画として行われた新・日本街路樹百景に選ばれました。

写真協力・さいたま市教育委員会文化財保護課



も枯れないのはそのためだといわれています。もう一つは、この木が「ハバキ様」と呼ばれていること。ハバキとは脚絆(きんぱん)のようなもので、神社に入るときにそれをかけておく木、という意味であるようです。

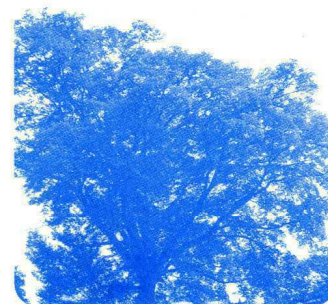
③宮原の大ケヤキ(北区)

ほかの大ケヤキと比べ、成長をさえぎるものが少なくのびのびと育っている印象です。個人宅に生えている木なので、拝見させていただけるときは御迷惑にならないよう配慮が必要ですよ。



④砂の大ケヤキ(見沼区)

樹齢約600年。上尾方面より第二産業道路を南下し、東北本線にかかる陸橋の上より大ケヤキを探すと、周りの建物よりひときわ高い木が見えます。これが砂の大ケヤキです。八雲神社のご神木として古くが

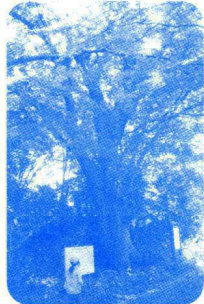


ら崇められており、注連縄(しめなわ)がかけられています。観音堂にあることから、地元では観音様のケヤキと親しまれています。今回紹介している大ケヤキの中ではかなり近くから眺めることができます。



⑤岩槻の大ケヤキ(岩槻区)

岩槻城址公園の敷地内にあります。外れの見つかりにくい場所にあり、しかもたくさん木に囲まれているので、探すときはちょっとした冒険気分。平地では珍しいヤドリギが上部に寄生しているのがこのケヤキの見どころです。



⑥林光寺の大ケヤキ(西区)

周りにさえぎるものがないためか、すくすくまっすぐに育った印象です。枝も箒のように開き、木肌もほかの大ケヤキに比べなめらかな印象です。そばに鴨川が流れ、春に川の向こう岸より眺めると桜並木越しにひときわ高い大ケヤキが見える配置になります。

参考文献

- 『さいたま市文化財マップ 平成20年3月31日』(さいたま市教育委員会 2008年)
- 『さいたま市文化財保護年報 平成20年度』(さいたま市教育委員会 2010年)
- 『大宮の文化財散歩』(大宮郷土史研究会 1979年)
- 『続大宮の文化財散歩』(大宮郷土史研究会 1989年)
- 『埼玉の指定文化財』(埼玉県文化財保護協会 2002年)
- 『埼玉ふるさと散歩さいたま市』(秋葉一男・青木義脩編 さきたま出版会 2003年)
- 『樺 日本の原点シリーズ木の文化』(新新聞社 2005年)

大原の大ケヤキは今…

与野駅東口のスクランブル交差点にあったケヤキの木が、倒木の恐れがあるとして、惜しまれながらも伐採されたのは2010年5月のことでした。そのケヤキがいま、芸術作品に生まれ変わろうとしています。

この事業に挑むのが、埼玉大学名誉教授で世界的に活躍する彫刻家・本田貴信(たかひな)さん。記者が取材に伺ったときはチェーンソーで木の内側を削っていたところでした。

本田さんの作品の特徴は「空洞」。今回のケヤキも、切り株の中の腐った部分を取り除いて空洞にします。これは同時に木が割れることを防ぐことにもなる。そして、木の表面の波打つような美しいひだはそのままだし、ひだのない部分にはキュビズム風の女性像を掘り出します。

制作を見学中、元自治会長の田中さんにも話を伺うと、いままで樹齢300年といわれていたこのケヤキ、伐採



制作中の本田先生。制作は、原則火・金曜日に浦和区上木崎の旧大原中跡地で公開しています。変更の場合があるので、見学の際にはまちづくり総務課(829-1445)へお問い合わせを。

後の調査で実は樹齢500年と判明したとのこと。となると、江戸時代に浦和宿と大宮宿の間に半里塚として植えられた、といつ謂われは…?

謎の残るケヤキですが、地元で愛されているのは今も変わりません。取材中も、見学に来た方が、かつてケヤキの木の皮でメロンコをした思い出を語っていかれました。ときには小・中学生もきて、削って出た木片を喜んで持って帰るの姿も。

そんなケヤキが作品として完成するのが3月。モニタメントとして市内に設置される予定とのことなので、これからレポートしていきます!

食べるを考える

「食べる」ことの意味、面白さを教えてくれる本をご紹介します。

本棚 ぶらり

◆小説のなかのグルメ

小説を読んでいると、無性に食べたくなる、台所に立って包丁を持ち、料理がしたくなる、そんな場面に出くわすことがありますか？たとえば20年以上前にベストセラーになった『キッチン』（吉本ばなな著 角川書店 1988）では、こんな場面があります。

この夏は集中して独学で料理を学んだ。(略) 具のたくさん入ったオムレツや、美しい形の煮物、てんぷら、そういったものを作るようになるまでにはかなりかかった。私のネックは性格のざつざつにあつて、ちゃんとした料理にすることがあれほどマイナスになるとは考えてもみなかったことだ。(略)

仕方なく私も何もかもをいらいにやるよう心がけた。(略) はじめはあせりで絶望したけれど、ふいにすべてが直りはじめた時は、まるで自分の性格まで直つちやつたみたいよ！と思った。うそでしただけ。(90〜92頁より)

『あまのこ』(増み・阿川和子著 集英社 1998 文庫版・2001)は、ある時は少し攻撃的に、ある時はほろ苦い思い出などもあり、まるで交換ノートのようなようです。増みみの朝食のメニューを紹介します。

厚切りのパンにたつぷりバターを塗り、ナチュラルチーズをのせて、オープントースターに入れる。焼き上がりまで、きっかり二分。その間に、オレンジを二個搾る。(略)

毎日オレンジを搾り、毎日オレンジジュースを飲んでいるうちに、オレンジで季節を感じるようになった。(文庫版86〜87頁より)

『食堂かたつむり』(小川糸著 ポポポ社 2008) や『かもめ食堂』(群像 幻冬舎 2006) は映画になりました。食べに来たお客様のために心をこめて丁寧に料理する様子を田に浮かべる

ことができます。

『彼女のこんだて帖』(角田光代著 ベターホーム出版局 2006)はレシビにお話がついています。第一話は4年ぶりのひとりの週末、恋人と別れた自分のためにフルコースを美しくセッティングしたダイニングテーブルへ。14話の登場人物がそれぞれ異なる料理を作っていきます。読んだあとにはぜひ作ってみて料理も堪能してみたいかががでしようか。

『赤毛のアン』(L. モンゴメリー著 村岡花子訳 新潮社 2008)の中には、たくさんのお菓子や料理がでてきます。たとえば、はじめのピクニックで食べたあごがれのアイスクリームについて、アンはマリリンにこう話しています。

それからアイスクリームを食べたの。アイスクリームって、言語を絶するものだよ、マリリン。まったく崇高なものね。(179頁より)

『大草原の小さな家シリーズ』の一作、『大きな森の小さな家』(ローラインガルス・ワイルター著 恩地三保子訳 福音館書店 1979)では、プタを一匹丸ごと解体するシーンがあります。プタの解体も、そこからラードやソーセージを作るのも、すべて自分たちで行わなければなりません。その様子が生き生きと、楽しそうに描かれます。ローラたちが解体したプタのしっぽをあぶって食べる様子は、思わず自分も食べてみたくなるほどおいしそうです。

しっぽはジュージューいって焼け、あぶらが炭の上にポタポタ落ちて、ポーツと燃え上がります。かあさんは、それに塩をふりかけてくれました。(略)

こういって焼かれました。はしからはしまで、こんがり焼けて、そのいいにおい。さましたのふたりは、前庭へもって行って、さましたのふたりは、まださめきらないうちに、もう食べはじめ、舌にやけどをしました。(25頁より)

権力者の食卓

小田晋著 P H P 研究所 1991

精神病理学者小田晋による雑誌連載をまとめたもので、歴史を紐解いての食談義。「権力者の」とタイトルにはありますが、権力者だけではなく様々な歴史上の人物が相上りせられます。有名なライチと楊貴妃の逸話、フランス革命の大立者ロベスピエールやマラーは胃弱だった、ローマ帝国皇帝には通風が多い、奈良時代の貴族は牛乳を飲んでた、などのエピソードを紹介。ほか、落語や、小説家や戦後歴代総理の好物、果ては時事問題まで扱い、盛り沢山の内容ですが、それぞれのエピソードは軽妙に語り飛ばされ、レヴィーIIストロースやグーデルが出てきても難しい議論は一切ありません。まさに「放談」といった趣きですが、本職を疑わせるほどの小田晋の知識の豊富さと語りの巧みさが、歴史と食が出会うことの面白さを感じさせてくれます。



天ぷらにソースをかける日本人 齋藤隆著 家の光協会 2010

本書は、著者が開発した食卓マーケティングシステム「食MAP」を用い、東京および近郊に住む360世帯の主婦の協力の下、食材の購入からその利用状況、更には、食卓に登場したメニューや家族の満足度等を入力してもらい、集計したデータから日本の食卓を生態学的に分析したものです。

他の家庭の食卓というものは、例外、わからないものです。ともすると、自分の家庭の食卓が世間の常識だと思ひ込みがちです。

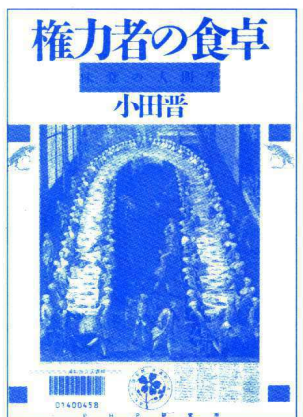
タイトルにある「天ぷらにソース」も、意外な組み合わせと感ずる方が多いであろう一方、当たり前のこととして食している家庭もあり、そのような実態が収集したデータからわかるのです。

データの収集は、一部、単身世帯の調査も交えながら、10年以上にわたり、そこから、日本の食卓の変化もわかります。そこには、予想どおりの結果も多く見られますが、そればかりでなく、意外な発見もできます。私たちの食卓には、無意識下で文化的影響を受けている面があるのと同時に、時代に合わせた工夫をしている面も見られ、結構、賢く健全に食生活を送っている様子が伺えます。

ふりかけ

熊谷真菜・日本ふりかけ懇話会著 学陽書房 2001

まず、ふりかけの歴史をひもとくと、元祖ふりかけは大正初期に



としかん 探偵事務所

Q 著はいつごろから使いはじめられたの？



A とても身近な食事道具である箸。その起源はどこまで遡ることができるでしょうか。「世界四大文明発祥地の一つ、黄河流域にその源をたどることができる。(略) 殷墟からは木の柄をつけた「銅箸」6本(三双)が出土した報告が見られる」(『箸』向井由紀子他／著 法政大学出版局 2001)。「殷王朝の都、殷墟から発掘された青銅製のものが、現在のところ最も古い箸」ではありませんが、実際に食事道具として使われていたわけではなく、「儀礼用に使われていたものだと考えられています」(『箸のおはなし』江頭マサエ／著 JDC 1987)。

では、実際に食事の道具として使われるようになったのはいつ頃なのでしょう。後漢時代には壁面にも、宴会で箸を使う様子が描かれているので、中国での食器の著の発祥は前漢(紀元前二世紀頃)以前で、後漢(紀元後一、三世紀初頃まで)に入ると急速に普及したと考えられる」(『箸』「春秋末期から戦国時代の初期から使われ始めて、その後100〜200年の間に徐々に、一般的な食器の道具として定着していったものでしょう」(『箸のおはなし』著の発祥から食器道具として使用されるまでには長い時間が経過しているようです)。

では、その箸が日本に伝わったのはいつ頃でしょうか。「日本に大陸から箸が農耕文化の一環として伝来したのは弥生末期である」(『箸の本』本田總一郎／著 柴田書店 1988)。「6世紀の初めに仏教といっしょに伝わったとする説」(『箸のおはなし』)などの諸説がありますが、はっきりとしたことは分かっていません。考古学的な遺物としては飛鳥板蓋宮遺跡(7世紀)で発見されたものが一番古いとされていますが、この箸は儀礼用と考えられています。実用品としては、「平城京跡から宮内省大膳職の建物跡や、堀や大井戸から多数の箸が出土している。(略)平城宮建造り改築に参加した人達の食器用で、おそらく使い捨てに用いられたのである」(『箸』)とあり、奈良時代にはすでに食器用として普及していたと考えられています。

大宮図書館

氷川神社の参道を歩くと、「二の鳥居」のすぐ東側に見えるのが大宮図書館です。大宮駅からは少し距離があり（徒歩約15分）、静かで落ち着いた環境にあります。建物は、昭和48年2月に開館したもので、さいたま市立図書館の中で一番古く、創立は、更に大正13年まで遡る歴史のある図書館です。

正面玄関を入ると展示ホールがあり、市内で活動している団体が交替わりで常に何らかの展示会等を開催しているのが特徴です。1階は、小説等の親しみやすい図書その他、雑誌やCDのあなご個人貸出室、2階は、主に調べ物にご利用いただく「公開図書室」や、子どもや親子のための「子ども室」等があります。文化活動やイベントも盛んで、毎週、子ども向けに「おはなし会」等が行われる他、毎年、地下の視聴覚ホールにおいて、文学講座や映画会等を開催し、好評



アルディーコーナー



を博しています。

また、近くには、浦和レッズとともに当市に本拠地を置くサッカーチーム、大宮アルディージャのホームスタジアム「NACK5スタジアム大宮」があるため、今年、新たに「アルディージャコーナー」を個人貸出室に設け、歴代のマッチデープログラムやチームのオフィシャルマガジン等の閲覧ができるようにしています。また、同チームには、10月に開催した「古本リサイクル」にも協力していただき、地域の活性化のために協力関係を深めています。サッカーの試合観戦や氷川神社にお越しの際は、是非、大宮図書館にもお寄りください。

特別整理休館のお知らせ

11月15日以降の今年度の特別整理休館のスケジュールです。

平成22年

- 宮原図書館 11月15日(月)～11月18日(木)
- 春野図書館 11月29日(月)～12月3日(金)
- 大宮図書館 12月6日(月)～12月10日(金)
- 桜図書館大久保東分館 12月6日(月)～12月8日(水)
- 大宮東図書館 12月13日(月)～12月16日(木)

平成23年

- 桜図書館 1月10日(祝・月)～1月14日(金)
- 中央図書館 1月17日(月)～1月21日(金)
- 与野南図書館 1月24日(月)～1月27日(木)
- 東浦和図書館 1月24日(月)～1月31日(月)
- 北図書館 1月31日(月)～2月4日(金)
- 与野図書館 1月31日(月)～2月4日(金)
- 与野図書館西分館 2月7日(月)～2月9日(水)
- 北浦和図書館 2月14日(月)～2月18日(金)
- 南浦和図書館 2月21日(月)～2月25日(金)



蔵書点検中。一冊ごとに所蔵を確認します。

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

| | | | |
|-----------------|------------------|-----------------|------------------|
| 北浦和図書館 832-2321 | 桜木図書館 649-5871 | 春野図書館 687-8301 | 与野南図書館 855-3735 |
| 南浦和図書館 862-8568 | 大宮西部図書館 664-4946 | 大宮東図書館 688-1434 | 岩槻図書館 757-2523 |
| 東浦和図書館 875-9977 | 三橋分館 625-4319 | 七里図書館 682-3248 | 岩槻東口図書館 758-3200 |
| 桜図書館 858-9090 | 北図書館 669-6111 | 片柳図書館 682-1222 | 岩槻東部図書館 756-6665 |
| 大久保東分館 853-7100 | 宮原図書館 662-5401 | 与野図書館 853-7816 | |
| 大宮図書館 643-3701 | 馬宮図書館 625-8831 | 西分館 854-8636 | |

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 今回はケヤキの木を特集しました。与野駅東口にあったケヤキの木が、いま生まれ変わろうとしているというニュースはうれしい限りです。文化を伝えていくことの大切さを感じました。
次回発行：2011年3月15日

